

# 市内に残る馬頭観音 訪ね歩き

## 今年は今(うま)年です

市内を散策しているとき、あるいは自転車や車をのんびりと走らせているときに、ふと、道端に建つ石碑や石像に目を止めたことはありませんか。数多く見かけるものには「馬頭観音」があります。一見すると道しるべのように見えたり、文字だけでなく座像が彫られていたり種類もさまざま。しかしながら、多くの市民の皆さんにとって、それぞれにどのような歴史や背景があるのかまではあまり知られていないようです。

今年は今(うま)年。今回は、馬の年にちなんで所沢市内に残る代表的な「馬頭観音」を訪ねてみました。

### 馬頭観音とは…

馬頭観音は、正しくは「馬頭観世音菩薩」といい、人々を苦しみや迷いから解放すると言われる観世音菩薩の一つの姿です。他の仏様が優しい穏やかな顔をしているのに比べ、この馬頭観音は、その名のとおり、馬の頭を頭

上にいただき、怒ったような表情をしていることが特徴です。この表情で悪や魔を破って、人々を救うのだと言われていました。馬の頭をいたたくという変わった特徴は、もともと「駿馬が四方を駆けるような勢いと威力をもって魔を退治する」という意味がありました。しかしながら、庶民にその信仰が浸透した江戸時代になると、農耕馬や運送馬など、家畜の守り神として信仰されるようになり、内容が変化していきます。

また、当時は牛や馬が大切な交通手段であったことから、旅や交通の安全を祈願する対象にもなっています。これに伴い、街道や辻などに道しるべを兼ねて建てられることが多く行われました。



★お堂の清掃は当番制ですが、ほとんど毎朝、花や線香をあげに行きます。近ごろは新しい住民の方もお参りしてくれます。春と秋のおまつりは盛大で、前回は手作りのだんごを焼いてお供えしました。斎藤龍之助さん(上安松在住)



▲1つの顔に8つの手を持った座像で珍しい丸彫りの像。文政13年の作。



▲百観音巡拝の記念に建てられたもの。折衷型。元治2年の作。



▲平成11年に建てられた最新の馬頭観音。



★6年ほど前から観音様のお世話をしています。それ以前はお墓かと思っていました(笑)。近所の方も庭で咲いた花などを持ち寄ってくれます。最近では私も安全祈願に手を合わせるようになりました。小泉朝美さん(西新井町在住)



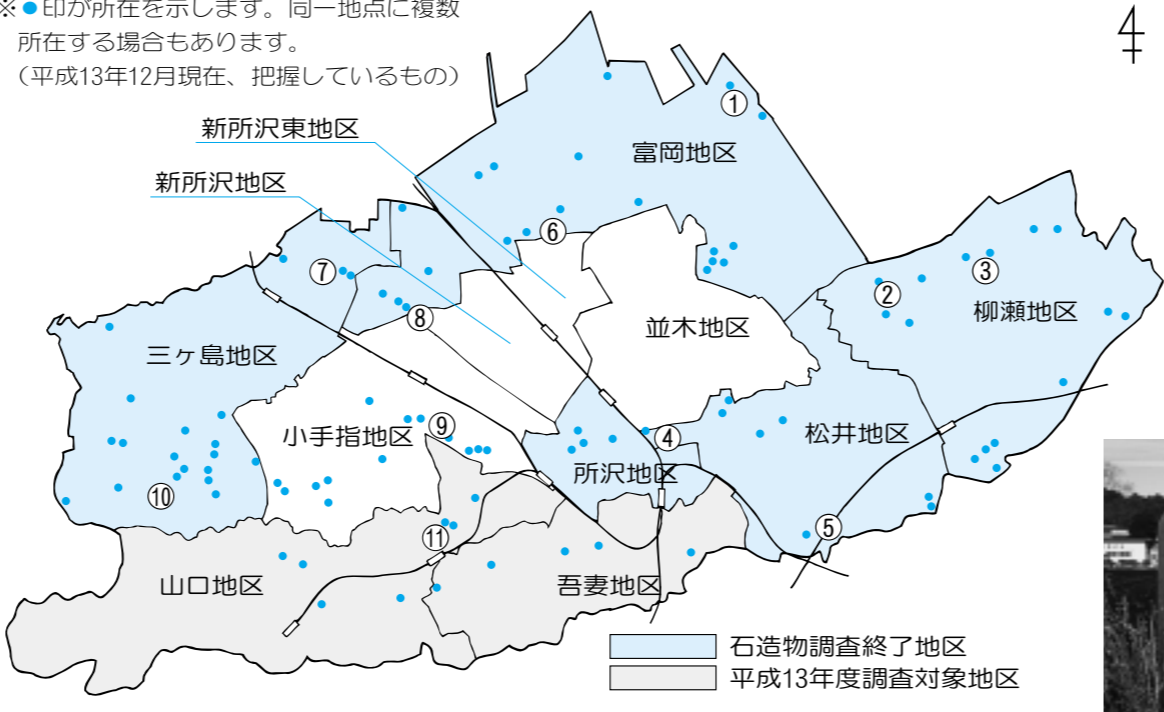
▲北野村と打越村の講の集まりで建てた供養塔。安永6年の作。



▲⑩と同じく旧勝楽寺村から移転したもの。道しるべは以前の道を示す。文化8年の作。

### 所沢市内の馬頭観音分布マップ

※●印が所在を示します。同一地点に複数所在する場合もあります。(平成13年12月現在、把握しているもの)



石造物調査終了地区  
平成13年度調査対象地区

### 市内の馬頭観音は…

市内で見られる最古の馬頭観音は、今から約300年前の江戸時代中期に建てられたものです。その後、江戸時代を通じて、明治・大正・昭和と時代が変化しても馬頭観音への信仰は絶えることがありませんでした。最近でも3年前の平成11年に、新しい馬頭観音が建てられています。交通の激しい場所に建てられた馬頭観音塔は、今でも地元の方々に大切にまつられています。

### 馬頭観音の「N」

一口に馬頭観音といっても、その形状はさまざまです。舟のへきや将棋の駒に似た形の石の正面に、浮き彫りで馬頭観音の姿を彫ったものは、比較的古い時期のもので、市内でもよく見られる馬頭観音の姿は、3つの顔と6つの手を持つ「三面六臂像」と言われるものです。怒った表情にふさわしく、右手に魔を払うための斧や矛などの武器を握っています。他の手には数珠や「輪宝」と呼ばれる車輪状のものを持つことが多く、また、残った腕は胸の前で指を合わせる

### 馬頭観音のある場所

馬頭観音が建っている場所は、基本的に道端です。分かれ道に建つ馬頭観音を見つ

けたら、ちょっとかかんで台の部分の石をのぞいてみてください。「西」「山」「三ヶ島」「東」ところ沢、山口、三ヶ島、東」ところを果たす内容を見つけたら、できるかもしれません。道端だけでなく、個人宅やお寺などにも馬頭観音は建てられています。それはそのお寺で飼っていた馬を供養するためのものであったり、「講」と呼ばれる信心の集まりの本尊として、造られたりする場合があるからです。

### 市内の石造物を調査中です

教育委員会文化財保護課では、平成10年度から馬頭観音塔も含めた市内にある石造物について、所在を把握するための調査を行っています。現在までに富岡、所沢、三ヶ島、柳瀬、松井地区が完了し、平成13年度は、山口、吾妻地区について行っています。

調査の結果は「所沢市石造物調査報告書」として刊行しています。現在、その1として「富岡・所沢の石造物」、その2として「三ヶ島の石造物」の2冊が完成しています。ともに1冊1,200円で市役所1階・市政情報センターで頒布しています。地区ごとに地図なども掲載していますので、市内の石仏めぐりのガイドとして、どうぞ活用ください。

馬頭観音をはじめ、市内各地に残る石造物は、その地に暮らした人々の願いや祈りが込められています。ぜひこの機会に遠い昔の所沢に思いを馳せながら、市内を探索してみてくださいいかがでしょうか。問い合わせ 教育委員会文化財保護課 ☎998-6000



▲現在の行政道路沿いにあり、この付近で運送馬を扱った人たちが建てたもの。天保15年の作。



▲旧鎌倉街道沿い。付近の交通安全を願って移築せず、覆い付きの現在の姿に。明治3年の作。



▲彫りが深く、憤怒の表情がはっきりとした厚肉彫りの優品。寛政13年の作。



▲狭山湖の湖底に眠る旧勝楽寺村ゆかりのもの。天明2年の作。